

令和4年度 第3回豊中市介護保険事業運営委員会

令和5年(2023年)2月13日(月)

午後2時～午後4時00分

第二庁舎 3階 大会議室

《出席状況》(介護保険事業運営委員会委員総数15名中15名出席)

豊中市介護保険事業運営委員会
◎小野委員、大野委員、秦委員、○辻委員、近藤委員、芦田委員、今井委員、橋本委員、野津委員 大槻委員、村上委員、西本委員、上田委員、長尾委員、樋口委員

(◎=委員長 ○=副委員長 委員名簿順)

事務局
福祉部：宮城部長、甲斐次長 長寿安心課：北村課長、野田主幹、高岡主幹、中田副主幹、大島係長、畑山係長、島田係長 福祉指導監査課：堂本課長 長寿社会政策課：山岸課長、森本課長補佐、加藤係長、武部主査、図師主査、溝田主事 小林主事、中根 健康医療部：寺田参事兼健康政策課長 保険資格課：太原課長補佐

《傍聴者》3名

《議題》

1. 高齢者アンケート中間報告
2. 第9期計画策定に向けた論点整理

《議事内容》

事務局 それでは、お時間となりましたので、令和4年度第3回豊中市介護保険事業運営委員会を始めさせていただきます。

■資料確認

■WEB説明

委員長 皆さんこんにちは。

新年になってから1か月過ぎて早いものです。どんどん時間は過ぎていきますし、大学も一通り授業は終わりました。次は年度末、入試のシーズンです。実は大学にいると少子・高齢化が非常によく分かるというか、学識経験者の皆さんはご関心いただけるとは思います。もう本当にすごいんだなというのをこの一、二年で特に感じます。

そういう中でもいろいろ課題がありながらもそれぞれの地域、その人らしい生き方とかその地域らしい暮らし方ができるように、こういう委員会を通して皆さんと一緒に考えていければいいなと思いますので、今日も一日よろしく願いいたします。

今日は後半にグループワークがございます。初めての試みですが、大学でもオンラインを使ってやりますけど、1回目ですごくうまくいくことはなかなかありませんので、どういう結果になるのか非常に楽しみです。どうぞよろしく願いいたします。

それではまず、高齢者アンケートの中間報告について事務局から説明をよろしく願いいたします。

議題1

■高齢者アンケート中間報告

事務局

【資料説明】

〈資料1〉「介護保険及び健康福祉に関するアンケート調査」

委員長

まずは、アンケート結果についてご報告がありました。ただ、時間の都合上、かいつまんでという形になりましたので、皆さんのほうから今の部分でも結構ですし、そのほかの部分でも結構です、最後にまとめていただきましたけれども介護サービスの必要性なり介護者への支援みたいなあたりが出てきている程度で、一部コロナの影響みたいなのが見られるのかどうなのかあたりも含めてご質問、ご見解を伺いたいと思いますので、ご意見がある方は挙手をお願いします。

委員

ご報告ありがとうございました。

最後のまとめの2点目ですが、家族介護者への支援については具体的にはどのようなところをイメージしたらいいのでしょうか。例えば、介護サービスの充実がそれにも結びつくと思いますし、制度にはありませんが現金給付的なことをイメージしているのか家族のレスパイトのところをイメージしたらいいのか。少し抽象的で分かりにくかったので、もう少し補足いただければ幸いです。

事務局

この2月に「介護者家族の会」にヒアリングしておりまして、そのヒアリング結果から見るところをまず1つ、事務局として考えているところがございます。ただ、ヒアリング結果がまだまとまっておりませんので、今後この運営委員会でもご報告させていただければと思っております。

委員長 具体的にはまだこれからということでしょうか。

事務局 今後検討させていただいて具体的な案を提示させていただければと思います。

委員長 具体的にはこれからということです。ただ課題としてはあるということは了解されているということでした。

委員 資料の31ページの問い72で、「主な介護者が今後充実を望む施策」とありまして、この中の施設サービスの充実というのが5ポイントも下がっています。大きく前回調査より下がっていますが、何か理由があるのでしょうか。

委員長 施設サービスのところですね。

これらも具体的なところなのでそこまで検討しているかどうかは分かりませんが、事務局はどう受け止めているか、今の時点で何かあれば応答願います。

事務局 このアンケートから読み取れるところとしましては、ご自宅を望まれている利用者が多いというのが一点です。この結果、31ページの問い72でも「在宅介護サービスの充実」が2.5ポイントほど上がっております。ですので、利用者も主な介護をされる方につきましても「今後の介護を望まれる場所」というのが在宅を望まれている方が多いのかなと推測されます。ですから施設よりも在宅を充実してほしいという結果になっているのではないかと思います。

委員 はい、よく分かりました。

委員長 在宅サービスとの関係でそのあたりが対応しているのではないかと、まだ恐らくそういう仮説的なところだとは思いますが、まずはそういう見解が出ました。

ほかにいかがでしょうか。

委員 コロナ禍での影響を私どもは非常に感じておりまして、例えば「介護サービスの充実」の中にはコロナにかかると介護サービスの人たちがみんな撤退してしまう、誰も来てくれない。だからそこを何とかできないかというところは介護家族の方々には痛切に感じているのではないのでしょうか。例えば看護師さんなどは感染対策しながら入ってこられますが、介護の方はなかなか入ってこられないです。そういう感染対策の指導を介護の方にもしながら、コロナに感染しても日常生活の支援は続けていただきたいという要望があるのではないかと思います。

それから、施設に対する充実が今回少なかった理由はその裏返しといいますか、施設に入ると面会できない。私の知っている方ですが、ご主人が老健に入られて3年間一回も面会できていない。ルールは施設が決めますので、これなら家にいてもらったほうがよかったとか、それから末期の方も、ホスピスに入って面会できないなら家にいてできるだけ最期は一緒にいたいというご希望も増えていきますので、コロナ感染の影響で施設や病院に入院することを避けて自宅で過ごしたい、そのための支援を充実してほしいという意見が恐らくこのアンケートにも反映しているのではないかと、これは勝手な私の推測なのですが、医療側から見るとそういうところも、より読み取れるのではと感じました。

委員長 ありがとうございます。

説得力のあるご意見だったと思いますし、コロナの影響がそういうふうに見えるというあたりはありそうですね。

ぜひこのあたりご意見をいただければと思いますので、今後動向が変わっていったときにまたどうなるかということになるかと思いますが、非常に貴重な資料だと思いますので共有できればと考えています。

ほかに何か気になるところ、いかがでしょうか。

これは今後の施策についての基本的な資料となっていくと思いますので、ぜひ皆さんご覧になっていただいて、随時何かございましたらこれを基にご発言いただければと思いますので、まずは共有したということでもよろしいでしょうか。ありがとうございます。

では続きまして、今日のメインになりますが、第9期の計画策定に向けた論点整理です。事務局から説明をお願いします。

議題2

事務局

■第9期計画策定に向けた論点整理

【資料説明】とグループワークの説明

〈資料2〉「第9期計画策定に向けた論点整理について」

■AグループとBグループに分かれてグループワーク

委員長

ありがとうございました。

どうでしたでしょうか、初めての試みは、本当にあつという間だったですよ。後ほどこのやり方についてもまた考えていければと思いますが、まずは話し合った内容を今皆さんまさに終わったところですからホットな状態のときに一回共有できればと思いますので、それぞれのグループから発表をお願いしたいと思います。

Aグループからよろしく願いいたします。

委員

Aグループでテーマ1、2についてお話しさせていただきました。

テーマ1について、介護人材の確保、介護現場の生産性の向上の推進についてということ、具体的な取組み、こんなのはどうかというのは1についてはそれほど出てきませんでした。現状の課題の掘り起こしのお話が多かったです。

一番大きかったのは処遇の改善をどうできるかが課題としてあるということと、人材の掘り起こしをしていく中でそれぞれの施設の形態や対象となる人の形も分けて考えて、違う形でアプローチしていかないといけないのではないかというお話と、あとは最近の若い方はSNSを使って45秒以内で毎日発信してそれでやっとなんか気になるようなところがあるというお話もありまして、そういう相手によってアプローチの仕方を変えていくということが大切ではないかということなどです。

論点2にも係ってきますが、地域の自治会等へのアプローチが必要というところや、民生委員も尊い仕事だが正当に評価されているのか、社会的にそういう部分もしっかりと考えて発信していく必要があるのではないかというお話がございました。

あと、テーマ2のほうですが、多様な主体による生活支援の介護予防、社会参加の展開についてというところで、フォーマルサービスを充実させても補えないところが当然あります。その分野別ではなくインフォーマルサービスをしっかり使って隙間などに対応することが必要ではないかということや、連絡会としてもこれは課題なのですが、ケアマネジャーがインフォーマルサービスを使うのに不慣れな方が多いのではないかということもあります。

ただ、対策として昨今言われているプロボノのサポートを求めている側が何を求めているかが不明瞭で、専門職でなくても対応できるケースはいっぱいあると、そのあたりを地域の方に担ってもらえるのではないかというお話もありました。

あと、自治会などで介護の人材の掘り起こしがあってもいいのではというお話もありましたが、その自治会ですら人材が少なくなっているという状況があるということで非常に大きな課題があることも浮き彫りになりました。

包括も様々な相談で手いっぱいになっているということで、地域交流は進んでいるが担い手が不足しているということです。

あとは、通所介護などでも、いつか介護が必要になった方が元気になっておられる方がいらっしゃって、一時的にそうやってサポートされても元気になる方もいるので、地域活動、通所介護の中などで何か地域活動に参加したりできるような仕組みづくりとか、障害では就労Bがありそこでまた社会参加をやり直すことができるような仕組みを介護でも考えてもいいのではないかといった意見などがありました。

あとは、人不足という話の中で、薬局ではそこまで感じているところはないが、介護系の人不足を医療系の場所からトータルで社会的な課題を発信していくことも大事になっていくのではないかといったお話もありました。

委員長

ありがとうございました。

1については課題についてかなり共有したという感じですが、2については幾つかアイデアなども出てきている、そんなイメージですね。

それでは、Bグループについてもご報告をお願いします。

委員

論点1についてBグループではケアマネジャーの離職がなぜ発生しているのかということとところを深掘りしました。それは制度的なものであったり報酬的なものであったり、ほかに職場の人間関係の改善が必要なのではないかとというようなお話もありました。

離職については、教育や職場環境の見直しもピックアップとして出てきましたが、具体的な解決策というより現場としてどういう問題があるかという内容でした。

あと、ICT、通信網についても意見がでまして、移動式端末機、タブレットやスマートフォンなど、就労している方が情報共有をしやすいような環境づくりのために市の予算を使ってもいいのでは、といった意見や、職場の人間関係のところでも出てきますが、研修制度ですね、豊中市でも研修制度を充実して現場の改善に取り組んでいただければといった意見も出ました。

離職率が高いという話のなかで、ケアマネジャーの報酬制度についても問題点があるといった意見がありまして、ヘルパーさんよりも今ケアマネジャーのお給料が下がっている現状があるよと、処遇改善加算があってケアマネジャーさんのお給料が減っているよと。その中でケアマネジャーという職種というのは介護でもすごい基盤になる、中心になる職種であって、しっかり評価してもらえるようケアマネジャーの報酬の見直しなども見ていかなければいけないよね、その中で介護の魅力を発信できる状況をつくっていかねばいけないというような総論的なお話でした。

あとテーマ2の社会参加についてもいろいろ意見が出ておりましたが、他職種、医療・介

護以外のサービス業などと包括的に連携を取っていける形というのが非常に重要ではないか。その中で市民や高齢者や老若男女皆さんが参加できる、しかも足で通える範囲で対面、ハンドインハンドでしっかりと皆さんが関わり合えるような受皿が必要なのではないのかと、そういうところで年代を超えた関わり合いができて新しい化学反応が起こるのではないかと、そういう方向性へ持っていければという意見が出ました。

地域文化の触れ合いを広げていく、テーマをしっかりと決めて社会参加を促す、といった意見が出ておりました。

委員 　少し補足させていただきますと、特に現場での人間関係のところというと、介護職やケアマネジャーさんに対するハラスメント、人権の確保といったところもすごく大切なテーマではないかということが提言されておられました。

委員長 　ありがとうございます。

皆さん、どうでしょうか、それぞれのグループの発表を聞いて改めてこのあたりが気になるなとか、こういうアイデアがあるなといったことを出させていただいてよしいかと思いますが、今後のことと言うと幾つかあって、Bグループからも例えば研修の話とか出てきましたが、研修制度をもう少し市で独自に設けられないかみたいな話とか、あるいはAグループからも先ほどあったように、介護を利用して利用者の人が少し元気になった後に、その人が活躍できるような場づくりみたいなのを少しモデル的に行政もやってもいいのではないかとか、あるいはこれは両方でしょうけれどもケアマネの人たちがインフォーマルサービス等を使えるような、これもそういうモデルみたいな、あるいはそういう研修のようなもの、さらにそこにプロボノが入ってくる、そういったのが市の工夫として、いきなり善処は難しいのかもしれませんが、今後の取組みとしてあるのではないかという具体化につながるような意見も出ました。

その間にもうちょっとこのあたりもというのがありましたら出していただければと思いますし、ICTの話とか、ロボット化の話、外国人材さえも難しくなっているという話はAグループのほうで出ましたが、日本自体の問題かもしれませんが、なかなかそのあたり多様な課題があると思いました。

いかがでしょうか。現状では皆さん、言い尽くせていますか。

Aのほうの課題は難しいなということですが、Bのほうは幾つかアイデアが出そうだなという感じもあったかなというところです。

まずは今日初めての試みでこういう形でグループワークを行いました。今後、あと2回ぐらい、どういう形になるかは分かりませんがやってみますので、まずはどうもありがとうございました。

では続きまして次の課題、第8期計画の進行管理、部会の報告についてですが、時間の都合上、説明は割愛して資料提供という形で、事務局お願いします。どの資料に書いてありますというのを事務局から補足していただくといいと思います。

事務局 　**【資料提供】**

〈資料3〉「地域包括ケア見える化システムを活用した地域分析」

〈資料4〉「第8期計画の進捗管理・活動指標調査票」

〈資料5〉「豊中市生活支援サービス部会について（概要）」

〈資料6〉「令和4年度地域密着型サービス運営検討部会について（概要）」

〈資料7〉「令和4年度（2022年度）介護保険施設等事業者候補選定委員会について」

委員長

結構資料のほうもしっかりといろいろ書いていただいていますので、ぜひご確認いただければと思います。

案件としては以上ということになりますが、事務局のほうから何か連絡等があればお願いいたします。

事務局

■その他

委員長

ありがとうございました。

それでは、これは別に今回の議題という形ではないのですが、この介護保険事業ということに関して特に豊中市ということでもあるのですが、今後の大きい方向として今日の話の中にもありましたが、いわゆる施設入所の形と在宅、居宅という大きい2つのくりに分けるとしたら、例えば今後どういう方向で考えていくのかと、恐らくそういうことが問われてくるのだろうなと思います。

そのあたりについてどれぐらい姿勢を示すのかどうなのかはまた別としても、ぜひ今後のそのあたりの論点というものが出てくるということは、皆さんのほうでも意識しておいていただければいいかなと思います。今日は別にそれがどうだという話ではなくて、一応話題提供としてさせていただきます。

事務局

ありがとうございます。

委員長が最後におっしゃったことについて発言させていただきますと、在宅なのか施設なのか、どちらに優先順位をつけながら考え方をというところもありましたが、今回の2テーマですね、介護人材と生活支援を取り上げましたが、今後続いていくテーマの検討で介護サービスの整備だけではなく、施策の優先順位をつけながらメリハリをつけてやっていかなければいけないのかというところは、委員長がおっしゃったところも含まれるのかなと事務局では理解をいたしました。

サービスの部分、あと施策の優先順位の部分というところは今後の議論を踏まえながら整理をして、都度提示をさせていただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員長

ありがとうございました。

それでは、本日の委員会は以上で終了とさせていただきます。お疲れ様でした。